

連載 技術経営

第6回 DXで行動・経験・モノを変革5Gで変わる社会と暮らし

＝問題は変容を嫌う日本の企業文化と風土＝

研究員(工学博士)

山中隆敏

データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを構築し、業務、組織、企業文化・風土、社会を変革するデジタルトランスフォーメーション「DX」が脚光を浴びている。DXを支えるデジタル技術、活用事例から、DXによる効果と課題について紹介する。

DXを支えるデジタル技術

DXを支えるキーとなる技術は3つある。1つ目は、IoTとクラウドである。デジタル化のすべての礎となるのはデータである。自社のデータだけでなく、IoTで様々なモノをインターネットに繋ぎデータを収集しクラウドで蓄積することで、新たな価値発見に繋げる。

2つ目は、大量のデータを分析しデータから知恵を生み出すAIである。AI自らがデータを学習し自律的に答えを導き出し、経営・業務に生かす。

3つ目は、高速大容量、高信頼超低遅延、超大量接続が特徴の5Gである。DXのキー技術は、ネットワークを前提としており、5Gが性能を上げ、DXを進化させ変革に繋げる。

DXの活用事例

アパレル市場においては、若者に人気あるブランドをタイムリーに多く取り揃えるECプラットフォームを構築し、消費者は、いつでも、どこにいても好きな物を買えるという環境が得られた。これまで、試着できないため通販には向かないとされたアパレル市場において、店舗を見て歩き購入する若者の行動をデジタルを使って変革した。

ホテル業界においては、一般家庭の空き部屋を旅行者に解放

するサービス。タクシー業界においては、一般のドライバーをタクシーサービスに登用するサービスで、既存のサービスやビジネスモデルを破壊・再構築するデジタルディストラクションをホテル業界やタクシー業界に起こした。

DXによる期待される効果

DXは、顧客や社会のニーズを、デジタル技術を活用して、企業や社会を変革することである。小売、自動車、医療、金融などDXの取り組みが進むことで、企業や社会、暮らしが変わり、人々の生活の質の向上や社会課題の解決に繋がる。

連載 技術経営

DXの障壁 「変革か、死か」

先進企業では、取り組みがすすめられているDXであるが、果たして、日本でDXが浸透するか疑問が残る。変容を嫌う企業文化・風土、ステークホルダーへのしがらみなど、変容しない経営判断ならば、いずれ脅威にさらされるであろう。各社、技術経営の手腕が問われる。

—以上—

<参考文献>

1. 経済産業省「DX推進指標」とそのガイダンス、
<https://www.meti.go.jp/press/2019/07/20190731003/20190731003-1.pdf>
2. 経済産業省 DX レポート IT システム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開、
<https://www.meti.go.jp/press/2018/09/20180907010/20180907010-3>
3. 富士通株式会社、<https://blog.global.fujitsu.com/jp/2019-09-26/01/08/01/>